

会社名 株式会社 **アールシーコア**
(コード番号: 7837) (<https://www.rccore.co.jp/>)
代表者名 代表取締役社長 二木 浩三
問合せ先 経営管理部責任者 鎌田 大樹
(TEL. 03-5990-4070)

～純木造ビル建築に新風～

日本初！^(※1)

防火地域での3階建てCLTログハウス 完成

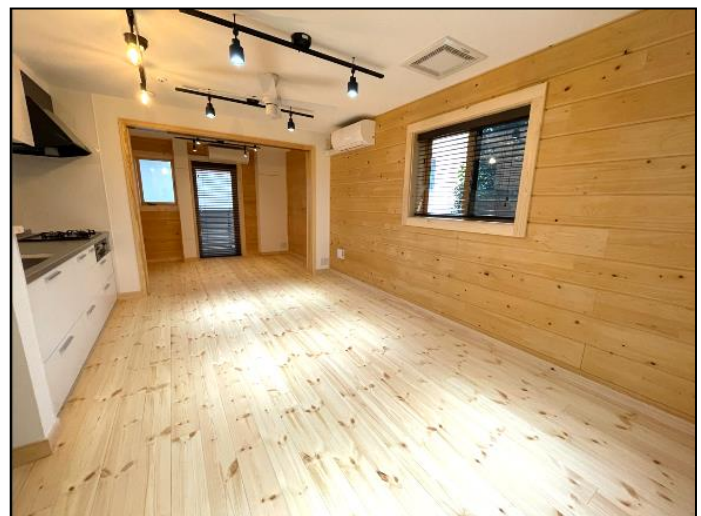
SDGs/脱炭素など環境配慮意識の高まりや、2019年建築基準法の一部改正に「木造建築の促進」が盛り込まれたこと等を背景に、「非住宅での木造建築」が増加し、先駆的な建築事例に注目が集まっています。2025年開催の大阪万博でも、CLTを活用した個性豊かなパビリオン建築が進んでいます。

ログハウス NO.1^(※2)の「BESS」を主宰する株式会社アールシーコア(東京都渋谷区 代表取締役社長 二木浩三)は、東京都福生市に、**最先端技術の木造建築「日本初となる防火地域での3階建てCLTログハウス」**を竣工しました。
(3階建てのCLTログハウスも日本初)



直交する木材を組み合わせ、外壁・内壁に木を現わし利用する合理的なログハウス構法。高精度CLT (JAS) 長尺材により、大型非住宅施設に対応

アールシーコアは、「CLTを用いたログ材の特許」、並びに「CLT ログハウスの商標」を保持^(※3)し、CLT ログハウスの技術開発を進めてきています。**「木材現わし」のログハウスは、従来は防火の法律で、防火地域では2階までしか建築ができませんでしたが、2023年2月に「90分準耐火構造認定」を取得することで、今回、日本初の防火地域での3階建てCLTログハウス建築が実現しました。**CLT ログハウスの日本での実績は、当該物件を含み4棟、また3階建てログハウスも3棟と少なく、工法としての認知も低い状況ですが、長尺材が取れるCLT材の活用と、防火認定の取得により、
今後、「**個人住宅/共同住宅/低層ビル/商業施設**」として、3階建てまでの建築が可能となります。



アールシーコアは、かつては山小屋や別荘の代名詞だったログハウスを、マシンカットの導入、防火認定の取得、告示の改正などの技術開発を進め、一般住宅に普及させる中核を担ってきており、CLT ログハウスにおいてもその可能性を追求していきます。**木造建築の中で異彩を放つログハウス構法。これから、各種施設の木造建築需要に木を現わして使う「圧倒的な木質感」と「ハード性能」でアピールが可能になります。**

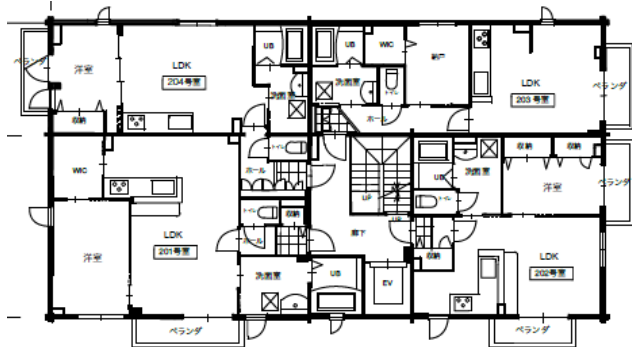
- ※1 : 自社調べ : 一般社団法人日本ログハウス協会 専務理事池田均氏にヒヤリング (2023年12月現在)
- ※2 : 2021年4月～2022年3月国内シェア 57%、国土交通省「丸太組構法建築確認統計」より当社算出
- ※3 : 取得特許、商標 : 「CLTを用いたログ材の特許(特許7169690)」「CLTログハウスの商標(登録6202021)」

<物件概要>

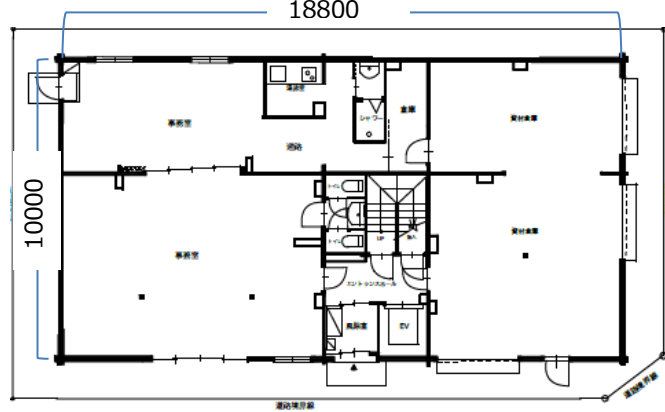
- ・建築地 : 東京都福生市牛浜133-1 ブル ビーチ ビル
- ・敷地面積 : 261.18 m² (建ぺい率 80%、容積率 400%)
- ・延床面積 : 564 m² (1F188 m²、2F188 m²、3F188 m²)、ベランダ 35.4 m²、総床面積 599.4 m²)
- ・建物用途 : 1階 純電工株式会社オフィス
2階/3階 住居 (8世帯)
- ・工法 : 木造丸太組構法 (CLT 利用)
- ・CLT ログ材 : 国産桧 (外壁:幅 210 mm×高さ 200 mm、間仕切り:幅 120 mm×高さ 200 mm)
- ・竣工 : 2023年12月
- ・オーナー : 純電工株式会社 (代表取締役社長 高橋 勲様)
- ・設計/施工 : 株式会社アールシーコア



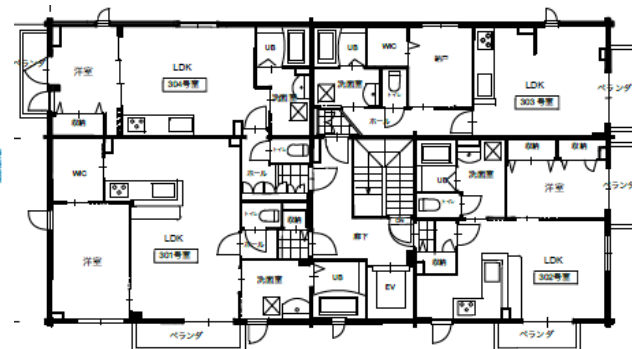
2F



敷地&1F平面図



3F



<特長>

- ログハウスは、直行する木材を組み合わせ、外壁・内壁に木を現わし利用する合理的な構法。
- 外壁は、国産桧 21 cm幅(3 cm×7ピース)のCLT材
これにより、耐火実験により難燃性が証明され、防火地域/3 階建てのログハウスの建築が実現しました。
- 内壁は、国産桧 12 cm幅(3 cm×4ピース)のCLT材
- 木材現わしならではの、圧倒的な木質感と温かみ、ハード性能が大きな魅力です。
- CLT ログハウスは、SDGs、循環型社会の創造に貢献する新工法で、今後の市場拡大に期待が持てます。



外壁 21 cm

内壁 12 cm

<牛浜ビルの CO² 固着量について>

木材は切り出しても CO²を固定し続けることが知られ、木造建築が推奨されていますが、ログハウスは、一般的な木造住宅の約 3 倍の木材を使用するため、CLT ログハウスの建築事例が増えることは、循環型社会の創造に貢献することは間違いありません。

牛浜ビルの CO²固着量は



延床面積 564 m²
木材利用量 171 m³

炭素貯蔵量 131 t-CO²
(CO²換算)

<換算すると>

木材全体の炭素貯蔵量 (CO²換算) について

(1) スギ人工林の面積・本数当たりの二酸化炭素蓄積量と比較する場合

スギ人工林 約	0.3	ha分の二酸化炭素蓄積量に相当
東京ドーム 約	0.1	個分の面積のスギ人工林の二酸化炭素蓄積量に相当
テニスコート (ダブルス) 約	13.3	面分のスギ人工林の二酸化炭素蓄積量に相当

スギ約 260 本分の二酸化炭素蓄積量に相当

(2) 一世帯・一人当たりの二酸化炭素排出量と比較する場合

一世帯の約	35	年分の二酸化炭素排出量に相当
一人当たりの約	74	年分の二酸化炭素排出量に相当
約	35	世帯の 1 年分の二酸化炭素排出量に相当

※林野庁:建築物に利用した木材の係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドラインにより、計算

<CLT ログハウスの技術解説については>

一般社団法人 日本 CLT 協会 の「CLT ログハウス」解説ページをご参照ください。
ログハウスの変遷から、CLT ログハウスの可能性などがご確認いただけます。

https://clta.jp/document/detail/remodelingwg_loghouse_20231113/

